

自然觀察

No. **84**
2007
9月

・ ファーブルはなぜスカラベからはじめたのか	2
・ 会計からのお願い	3
・ 第18回滝野の自然に親しむ集い 実施報告	4
・ 滝野参加者の声	4
・ アンケートまとめ	5
・ 2007年度地方研修会Ⅰ報告 旭川の自然を見よう	6
・ 参加者の声	7
・ シリーズ 小さなカタクリの大きな秘密 第一回 地域個体群保全の重要性	8
・ 滝野に親しむ集いアルバム	9
・ ウォッチングレポート	10
・ フィールドニュース 南区 石狩市	14
・ ウォッチングプラン	15
・ 事務局だより 理事会だより	16
・ 緊急連絡先他	16



サルメンエビネ

北海道大学で「ファールにまなぶ・展」が開催されている。「昆虫記」の発刊百周年を記念しての日・仏共同企画によるもので、めったにない機会だから「必ず見に行かなくちゃあ」と思いつつも、まとまった時間がとれずにいまだに果たせないでいる。

ところで、よく知られているようにファールの昆虫記は「糞虫」と呼ばれる鞘翅目の記述から始まっている。糞虫の中でも中心になっているのは、ヒジリタマオシコガネ（ヒジリオオファンコロガシ）の和名があるスカラベ・サクレである。（日本にはいない）

確かに、糞で団子を作り、逆立ちして転がしながら運んで行く姿は目に付きやすいし、行動様式としてはユニークで、想像力を掻き立てるに十分である。でも、それだけで大博物学者の心を捕らえきった、とは考えにくい。その証拠に昆虫記では、スカラベの後には「狩人蜂」と呼ばれる一群の膜翅目の行動観察が大きな比重をもって記載されているのだ。

サクレとは「神聖な」の意味だそうだ。おそらくは、「最初にナイルに定着したエチオピア人」だと思われる古代エジプト人たちが、スカラベを「聖なる虫」にしてしまった。東から西へと糞玉を転がす姿を太陽の運行になぞらえたり、ナイルの氾濫のあと真っ先に現れるスカラベを「再生」の象徴と見たりして、王家の紋章にまでなったという。（個人的にはすばらしい感性だと思うけど）

ファールは古代エジプト人に敬意を表して昆虫記の最初にスカラベを持ってきたのだろうか。それは考えにくい。（なお、ファールがスカラベ・サクレとした虫は、正しくはサクレではなく酷似するティフォンであるという。でもそんなことはこの段階ではどうでもよいことであろう）

糞虫に魅力がないなどとは言わないが、狩人蜂たちは魅力に満ちている。ファールも全10巻の昆虫記の1～4巻までにほぼ主役として登場させている。狩人蜂たちの魅力は何だろうか。まずスタイルがいい。細い腰、体に似合わない小さめの翅。そして第二に物腰。小さく翅を震わせ、せわしなくアンテナを揺り動かしながら、それでいて自重の何倍もある獲物を引きずる力強さ。極めつけは

強力な麻醉注射の一撃だ。（以上、まったく個人的な好みで評価しています）

我が庭にも一匹の狩人蜂が住み着いていて、もう2週間も私を悩ませ続けている。たぶんヤマジガバチであろう彼女は、もう何回も大きなアオムシを引きずる姿を見せつけながら、いつも追跡者を煙に巻いてストレスと血圧を高めさせ、巣穴の入り口を教えてくれないのだ。（写真 - 1）



写真-1 シガバチ

この夏、妻と山道を歩いていたときにミミズの死骸を引いているシデムシ（たぶんヒラタシデムシ）を見た。シデムシのほかにキンバエの類も数匹いて、なんとなく「綱引き」をしているような場面にも何度か遭遇した。（写真 - 2）

押し寄せるヤブカを払いながら観察すると、ハエたちは獲物を運ぼうとはしていない。口器の形態から考えても喰らいつくとは考えられず、産卵することが目的のようだ。それに対してシデムシのほうは明確に「ミミズを運ぶ」という意図を持っているようだった。そして、明らかにハエの存在を迷惑がっていた。（ように見えた）



写真-2 シデムシ

2匹のシデムシが引いている場合もあったが、「ベクトルが一致しているからこの2匹は『夫婦』なのだ」と妻は言う。「まさかそんなことはあるまい」と思ったが、帰宅してから文献を調べてみると、あるではないか！

モンシデムシの類はミツバチのような「真社会性」の一手手前の「亜社会性」を持ち、♂♀共同して死肉を埋葬し、♀は完璧なまでの子育てをするという。外国の例ではシデムシだけに取付く小さなダニが知られている。このダニは死肉に生みつけられたハエの卵や蛆を食うことによってシデムシと双利共生しているというのだ。これまた、すごいことではないか。シデムシの周囲にはまだまだ神秘の世界が広がっているのだ。

モンシデムシ属以外には♂♀の共同作業はないのだろうか？ そのあたりはよくは分からない。単に文献の調べ方に不備があるだけなのかも知れないが、（少なくとも大衆的な書物に依拠する限り）研究が進んでいるとは言いがたい状況を感じる。そうだろう。農業害虫でもない限り、あの臭いや生活様式を考えると、進んで研究テーマにしようとする人がいなくてもその人たちを非難できるものではない。

しかし、シデムシを無視していいのだろうか？

ここまで思いを巡らせた時に、突然、ファープルの主張したかったことが理解できた（と思った）。以下、まったく勝手な、私の「我田引水的な推

測」ですので悪しからず）。

糞虫にしてもシデムシ（漢字で表すと埋葬虫〔広辞苑〕）にしても、美しくもなければカッコもよくないし臭い。少なくとも「昆虫採集少年」の関心の外に置かれる虫であろう。

しかし、彼らのこなしている仕事は実に偉大である。彼らが存在しなければ、われらの母なる惑星は瞬く間に死体と排泄物で埋め尽くされてしまうであろう。

学者・研究者としては「陽の当たる」道を歩んできたとは言いがたいファープルが主張したかったことは、不当に低められている（というのに語弊があれば、関心の外にある）死体・排泄物の処理者たちの、生態系における重要な役割を承認せよ、ということではなかったのか。

近年、子どもたちと接するにつけ加速度的に「ムシ嫌い」が増えているような気がする。別に「好きになれ」と強制するつもりもないが、同じ「宇宙船・地球号」の乗組員としてお互いの役割を認め合う姿勢は持ってもらいたいものだと思うし、観察会でもそのあたりのことは強調したいと思っている。

（以上、昆虫のことは何も知らないくせに、それをいいことに「盲 蛇に怖じず」で好き勝手なことを書きました。専門家の諸兄諸姉の心温まる叱責をお願いします）

会 計 か ら の お 願 い

会費の納入はお早めに

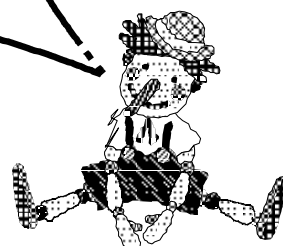
2007年度会費の入金がまだの方は、同封の振込用紙をお願いします。
すでに入金済みの方には振込用紙を同封していません。

通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。

*10月1日から郵便局の民営化にともない、
払込み料金が値上がりします。

- ・窓口での振込みは100円が120円に
- ・ATMでの振込みは60円が80円に

会計 畑中 嘉輔



第18回 滝野の自然に親しむ集い 実施報告

畑中 嘉輔

実施日 2007年8月11日(土)～12日(日)
参加者 一般55名(子供31名、大人24名、21家族中リピーター6家族)
指導員11名 学生4名 計70名

実施内容の反省

日程

- ・お盆に近いので指導員の参加が少なかったと思われるが 一般参加者のほうは必ずしもそうではない。
- ・「おしゃべりからす」の宣伝効果があった。

受付け

- ・流れはよかった。少ない人数でよくやった。

入園式

- ・家族紹介のパターンを印刷しておいたのがよかった。
- ・オリエンテーションでは2日間のおよその日程、集合場所、掃除区域を事前に連絡しておくとうい。

せせらぎウォッチング

- ・川辺に運んでいく机をリヤカーで運べたのがよかった。
- ・前日の雨で水量が少し多かったが人気があった。

炊事(ポークカレー作り)

- ・飯ごうの扱いが変わった(炊けたらひっくり返さない)
- ・ごはんが大量に余ったのがもったいない。

ナイトハイク

- ・事前の説明が不十分だった。全体の前ではつき

り説明することが大切。

- ・懐中電灯を使うことをやめさせるべきである。
- ・全体的におしゃべりもなく静かに実施できた。
- ・指示されて間隔を開けるのより自分達で開けるほうが自然に思えた。

星空ウォッチング

- ・夜空の観察ができ、星座や惑星の観察ができた。

懇親会

- ・子供の席と大人の席に分かれたのが好評だった。

朝のつどい・朝の散歩・朝食

- ・朝の散歩は今年はリピーターの中学生に鳥の観察をお願いした。
- ・朝食はセルフサービス式にして、いただきますは揃ってするが、ごちそうさまは各自です。

自然観察ハイキング

- ・沢ひろばでの水遊びは次回からはやめさせる。
- ・駐車場までの乗用車での移動はチャイルドシートの義務化で相乗りを考える時期がくるかも。

次年度へ向けて

- ・2日目の日程をゆとりあるものにするため、初めから学園利用時間を延長して申し込む。
- ・学園利用料金、保険料の値上げなどにより参加料金の変更も検討していく。

滝野参加者の声

札幌市 滝野の集い (07/8/11・12)

白石区 本間 尚人(10才)

< 滝の自然学園で楽しかったこと >

ぼくは、滝の自然学園に行く事を楽しみにしていました。なぜ楽しみだったかというと初めて滝野でキャンプをするからです。

キャンプで楽しかった事は、厚別川で水生昆虫をとった事です。暑かったので川に入ると冷たくて気持ち良かったです。弟は、ドジョウをつかまえてうれしそうでした。

カレーをつくる時は、まきわりをしたり、かまどをつくったりたいへんでした。けどカレーは、おいしかったです。

キャンプファイヤーでは、"もえろよもえろ"と"スイカのめいさんち"を歌いました。そのあとおどりもやって楽しかったです。

自然観察 84号 (4)

ナイトハイクでは、夜に山を登って弟が「こわい。」と言いました。ぼくは、こわくなかったです。

自然観察ハイキングでは、せみのぬけがらを見つけておもしろかったです。

楽しかったのでまた来年も行きたいです。



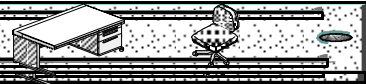
第18回滝野の自然に親しむ集い アンケートまとめ

【子ども用】 回答31 / 31参加

- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1. いちばんおもしろかったのは？ | 3. 何かこまったことはありませんでしたか？ |
| ・せせらぎウォッチング 6 | ・2日目は暑かった 1 |
| ・カレーライス作り 14 | ・フイルドビンゴのときトイレがなくてこまった 1 |
| ・星空ウォッチング 6 | ・なかった 2 |
| ・キャンプファイアー 5 | |
| ・ナイトハイク 5 | 4. わからなかったことは何ですか？ |
| ・フィールドビンゴ 2 | ・ねぶくろの使い方 1 |
| 2. 発見したことやおどろいたことは何ですか？ | ・食事のセルフサービス 1 |
| ・オニヤンマ、マイマイなどたくさんの虫がいた 4 | ・なかった 29 |
| ・夜の森はこわかった 3 | |
| ・カブトムシをみつけた 2 | 5. 何かいやなことがありましたか、それはどんなこと？ |
| ・クルマトンボは実はノシメトンボだった 1 | ・夜、ねられなかった 1 |
| ・ふだん見たことのない虫がいた 1 | ・兄弟けんかした 1 |
| ・飯ごうでごはんをたいた 1 | ・小さい子にばかにされた 1 |
| ・セミの鳴き声がおおきかった 1 | ・なかった 30 |
| ・やわらかい肌の木があった 1 | |
| ・ハナカジカをつかまえた 1 | 6. らいねんもさんかしたいですか？ |
| ・カエルがでてきた 1 | ・ぜひ参加したい 16 |
| ・星がとてもきれい 1 | ・できたら参加したい 10 |
| ・記入なし 14 | ・参加したくない 4 |

【おとな用】 回答24 / 24参加

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 滝野の集いをどこで知りましたか | ・年齢の違う子と遊ぶ 3 |
| ・PRチラシ 8 | ・自然の中でのハイキング、遊び 3 |
| ・年間予定表 4 | ・親子関係がよかった 1 |
| ・ダイレクトメール 4 | ・テレビのない生活 1 |
| ・おしゃべりからす 4 | |
| ・新聞紙上で(道新1朝日1) | 6. 宿泊設備についての感想は？ |
| ・2 新聞紙上で(道新1朝日1) | ・古い木造の建物は昔風で快適 8 |
| ・知人の紹介 2 | ・子どもを思い出す木造校舎はよい 5 |
| ・HP 1 | ・トイレ、寝袋がきれい 2 |
| 2. 今まで自然観察会などの行事に参加したことは？ | ・思っていたよりきれい 1 |
| ・ある 12 | ・少し暑かった 1 |
| ・ない 12 | ・虫が少なくてよかった 1 |
| 3. 2であると答えた方は、どのような行事ですか | ・朝食の準備ありがとう 1 |
| ・協議会の自然観察会 4 | ・学園のスタッフがおもしろかった 1 |
| ・滝野の集い 3 | ・寝袋がかゆくてねむれなかった 1 |
| ・藻岩山登山 1 | |
| ・探鳥会 1 | 7. その他、なんでもけっこうですから、参加した感想を |
| ・森林ウォーキング 1 | ・楽しかった。満足でした 4 |
| ・農業体験 1 | ・来年も思い出つくりぜひ参加したい 3 |
| ・海辺と森の探検隊 1 | ・指導員の気配り、説明など行き届いていた 2 |
| ・子供育成会の行事 1 | ・夕食、朝食にやさしいがあるとよい 1 |
| 4. 滝野の集いで発見したことや驚いたことは何？ | ・振込みの入金があったらすぐ連絡がないと心配 1 |
| ・星空がきれいで宇宙の説明に感動した 3 | ・懇親会はもう少し時間を早めてほしい 1 |
| ・川に入ることが初めて、生物の多様性 3 | ・スケジュールのわかるものを早めにほしい 1 |
| ・ナイトハイクで暗闇の中、色々な音を聞いた 3 | ・持ち物は小さなものでモリストに入れてほしい 1 |
| ・虫や植物の名前を知り勉強になった 1 | ・ナイトウォークはちょっと危険かも 1 |
| ・札幌にカブトムシがいる 1 | ・いろいろな家族の交流ができてよかった 1 |
| ・自然の中でさまざまな楽しみ方がある 1 | ・子供だけのグループを作り、親は指導員の補助として働けたらよいと思う 1 |
| ・知らない人達と力を合わせる体験がすばらしい 1 | |
| ・今年は参加者が多く、あっという間に子供に友達が出来た 1 | |
| 5. 滝野の集いで、一番子どもに良いと感じたことは？ | |
| ・自然とのふれ合い 7 | |
| ・自然について指導員の方に学べる 6 | |
| ・かまど作りや炊事の手伝い 5 | |
| ・初対面の人と関わり合う 3 | |
| ・知らない人との集団生活 3 | |



2007年度地方研修会 報告

テ ー マ： 旭川の自然を見よう ―五感を使って地図作り―
 実 施 日： 2007年6月24日（日）9:00～14:30
 場 所： 旭川市 春光台公園
 講 師： 菰田雅樹氏（環境共育事務所うてきあに）
 参加人数： 18名

今回の地方研修会は、旭川およびその近郊の指導員と全道の指導員と一緒に自然観察をしながら交流を深め、身近な自然を見つめ、考える機会として設定しました。午前中は春光台公園で菰田雅樹さんを講師に、五感を使った地図作りに取り組み、午後からは、参加者全員で交流会を行いました。旭川における自然観察会実施の可能性について様々な意見が出され、この秋または来年早々にも実施する機運が出てきました。多くの指導員がそれぞれの場で活躍している旭川において、その力を一つにする契機としての地方研修会になりました。

その後旭川の指導員で自然観察会の計画が話し合われ、この10月に嵐山で実施されることになりました。旭川の皆さんの努力が実を結びました。今後この実がさらに大きくなることを願っています。

（大表 章二）

（概 要）

研修 『五感を使って地図作り』

春光台公園「風の子館」前で、アイスブレイクを兼ねた自己紹介、「地図作り」の説明。

時々薄日がさす空模様のもと、3人一組となって「五感で感じる春光台公園マップ」づくりがスタート。

道道下のアンダーパス（トンネル）をくぐり少し進むと、それまでの空間と違って、緑にかこまれた森の中へと変わります。

この遊歩道は、細長い公園に沿って、その中央部を東西にのびる谷間にあって、車の騒音がほとんど聞こえず、さわやかな風とセミや鳥の声、水音などにかこまれた別世界となります。

ハンノキなど落葉広葉樹の明るいトンネルの中を、オニシモツケ、オオウバユリ、ミズバショウの大きな葉をはじめ様々な植物、色いろな虫たち、鳴きかわす小鳥、オニヤンマの羽化、セミの抜け殻、さまざまな自然の宝物を地図に書き入れながら歩くと、やがて旭川市東部を見渡す展望ポイントへ到着。

雄大な大雪連峰のパノラマはあいにく雲の中でしたが、旭川市街はよく見渡せました。

そして、林間に造られた（公園にふさわしくない）舗装道路を歩いて「ヤドリギの碑」前へ到着。ここで、各班は「五感マップ」を完成。

立ち木の間に渡したロープに「五感マップ」を吊し、各班の個性あふれた地図の説明を聞き、感想を話し合いました。

その中で、「草や樹木の名前」にこだわらない観察会があっても良いし、また、参加者の興味に

合わせて、積極的に名前を伝えても良いのではないかと、という意見も出されました。

年齢とともに、「自然の素晴らしさや不思議さ」に対する感受性が薄れつつあるいま、自然を守る原点である「自然に対する感性」を大切にしたい...と改めて感じました。

天気予報がはずれて、雨が降らなかったことが何よりでした。

交流会 『自然観察あれこれ』

午後、公園の木陰で車座になって自己紹介、自然観察会の経験、今後やってみたいことなど、ざっくばらんな話合いが行われました（一時、雨で場所移動）。

旭川ではそれぞれの会員が所属している団体に観察会を行っています、北海道自然観察協議会としては、観察会を開けなかったのが実情でした。

・自然観察指導員というより、自然観察普及員とか自然案内人といった心づもりで、観察会を進めてはどうか？

・この研修会を機会に、旭川でも自然体で気張らない観察会を始めてはどうか？

などの意見が出された。

「旭川の有志が協力しあう形で取り組んでみたい」という声もあり、具体化する方向を確認して交流会を終了しました。

研修会を通して、各地で観察会を開いている先輩諸氏の経験に学び、旭川での新しい一歩を踏み出すきっかけにできればと願っているところです。

（伊東 勲記）

恵庭市 恵庭公園 (07/5/26)

恵庭市 吉田 英子
雨あがりの澄みきった空気の中を野鳥のさえずりを聴きながら初めての自然観察会に参加しました。

日頃、草木の名前などにあまり関心がない方で、この日も森林浴でも楽しもうと軽い気持ちで出掛けましたが、公園の中を歩きながら豊富な知識を持った指導員の皆さんの説明を聞いているうちに、私も何かひとつ位は覚えて帰りたい気分になりました。

マムシグサ、ツルアジサイ、サクラスミレ、オオバユリの塔立ち、ユカンボシ川のことなど、覚えたのはこんな程度でしたが私にとっては大きな収穫でした。

この観察会に誘ってくださり、自然に親しみ、学ぶ楽しみを教えてくださいました指導員の方、幼稚な質問に懇切丁寧に答えてくださった指導員の皆様方に心よりお礼申し上げます。

機会がありましたら、又参加させて頂きたいと思います。

倶知安町 半月湖周辺 (07/6/3)

札幌市 小玉 悦子
出発時は雲におおわれて周りの山々は見えず、肌寒かった。しかし、歩き出して間もなく予定通りにとてもよい天気になり、清々しい新緑の中で自然の豊かさを堪能することが出来ました。

参加者の三分の一が子供達で、賑やかツアーパーティになりました。

コースの途中、指導員の方々が子供達に、笹の葉やタンポポの花の茎を使って草笛の作り方や鳴らし方を教えておられたのが印象に残りました。

大人の参加者も子供達に負けじと子供心にかえって一時を楽しみました。

月形町 月ヶ湖 (07/6/17)

札幌市 中野 伸夫
何年か前に妻と2人で大沼を訪れて以来、月ヶ湖のことがずっと気になっていました。当方、札幌で環境関連のフリーペーパーを出している関係で、環境財団のホームページをのぞいていたところ、この観察会の案内を発見し、さっそく参加した次第です。

最良のガイドさん2人に引率していただき、楽しい体験をさせてもらいました。まさか奥の方まで歩いていけるとは思っていませんでした。

ネムロコウホネが水面に黄色い小さな花をつけ、空にはトビが舞い、向こう岸を望遠鏡で眺めると、アオサギが草むらで羽を休めていました。

7月16日に仲間のNPOが当別のミニバスツアーを計画しているので、時間があれば月ヶ湖のすばらしい自然を参加者に見せてあげたいと思っています。

末筆ながら、貴会のご活躍を期待します。

南区 真駒内川 (07/7/15)

札幌市 佐藤 咲良
わたしが観察会に参加したのは、母がホームページで観察会を見つけて、私をつれて来たからです。本当はわたしは、観察会なんて面白くなさそうだなと思いました。

かんたんなクイズに答えてから、川に入って、あみと皿みたいなので、虫や魚をつかまえに行きました。つかまえた虫や魚を後で観察します。わたしはたくさんつかまえるぞ！と思いました。

でも、魚はなかなかいなかったの、虫をつかまえることにしました。虫をさがしていると、やっとつかまえて虫がかわいくなりました。

魚はつかまえられなかったけど、虫をつかまえたので楽しかったです。

あまりに楽しかったから次の日あみを買ってもらって、もう一回つかまえに行きました。その日は魚をつかまえられて、うれしかったです。

小樽市 オクモイ海岸 (07/7/22)

小樽市 相澤 和夫
一番の期待はオショロソウ(バシクルモン)の観察と写真撮りだったのですが、残念乍ら此度は不可能でした。

北海道だけでも数千種に及ぶ植物名の内、小樽市に関わる地名が付くのは、忍路草だけだと思います。小樽に住んでいながら今迄、この花を図鑑でしか見れなかったのは恥ずかしい限りです。

40年間続けた製造小売業を諸般の事情により、昨年廃業しました。今年からは一応心の赴くままに時間を使える立場になりました。残りが少なくなった余生で、どれだけ多くの自然の草花との出会いが出来るかを楽しみに元気でありたいと思っています。次回以降も出来るだけ観察会に参加させて戴き、深く自然を見つめたいと思っています。

指導員の先生方にはこれからも宜しくご教示下さいませ、慎んでお願い申し上げます。晴天に恵まれ、心地良い汗と爽やかな"千の風"を感じた楽しい半日でした。有難うございました。

第一回 地域個体群保全の重要性

専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科

石川 幸男

はじめに

私たちは20年近く、北見市端野町（当初は常呂郡端野町）においてカタクリの保護保全に関わる調査を行ってきた。本種は日本とその周辺に生育し、春先の落葉広葉樹林の林床を彩る可憐なユリ科の多年草である。調査の結果、端野町のカタクリにはユニークな特性があることがわかってきた。

これから5回にわたって、この調査を題材に、身近な植物の地道な観察を通じて得られることの意味を解説するとともに、私たちの活動を紹介する。

個体群保全の意味

カタクリは身近な二次林に生育することからよく親しまれているものの、生育地である二次林が開発で失われたり管理不足で荒れたりして、地域によっては失われつつある植物でもある。

ひとくちにカタクリといっても、実はカタクリという種の全個体をみているわけではない。一般にある生物の種を語る場合、トキのような特殊な例外を除けば、その種の全個体を網羅していることはまずない。実際には、各地のカタクリは地域ごとにまとまりを持って生育しており、われわれは通常、ある地域の、しかも限られた数の個体をみてカタクリと称している。これらを調べれば、その性質は一般性を持っており、全てのカタクリに通用すると仮定されているといえる。生態学や進化生物学では、こうしたまとまりを個体群ないし集団と呼んでいる。種を認識するのには個体群が単位となるのであり、こうした地域ごとのまとまりを地域個体群という。



図-1 カタクリの個性 蜜標の色々 (写真) 竹林正昭

われわれ人間が一人ひとり異なる容貌をしており、そのことの一部には遺伝子の違いが背景にあるように、カタクリでも各個体は遺伝的な変異をもっている。そして当然ながら、各地の地域個体群間でも遺伝的な違いがあるはずである。したがって、地域個体群によって生態的特性も大なり小なり異なっていると考えられるものの、ある種の全個体群で調査された例はない。これは単純に、手が回らないという理由以外のなにものでもない。

各地の地域個体群は隣りあう個体群との距離に応じて、花粉を通して遺伝子をやり取りしている。一般に昆虫が花粉媒介を行うことによって、動けない植物でも遺伝子を広げることができるが、あまり遠いと花粉は到達しない。北海道のカタクリが本州のカタクリと交配することはないだろう。

このように隔たることを隔離とよび、隔離されると時間の経過とともに少しずつ遺伝的な変異が蓄えられてゆく。そして場合によっては、花の形態が異なったり、開花時期がずれたりすることなどによって、やがては交配できないようになる可能性がある。生物の進化、すなわち種分化とはこのようにして起こるものであり、その担い手が地域個体群なのである。

以上より、地域個体群が種の実態であり、遺伝的多様性の担い手であり、さらには種分化の単位であることから、他の個体群が豊富にあるからといってどこかの個体群が失われてよいという理由にはならないことが明らかといえる。

生物多様性保全の重要性

20世紀に入ってから、地球のいたるところで生物の種の絶滅が著しい。実は地球の歴史約46億年の間には、その当時に生育していた生物の多くが絶滅したような大量絶滅の時代が少なくとも数回は起こっている。恐竜が絶滅した中生代・新生代境界の約6400万年まえの絶滅期は良く知られている。

しかし、現在の大量絶滅はそれら過去の大量絶滅に比しても絶滅速度が桁違いに大きく、その原因はほかならぬわれわれ人間の活動であることから、生物の保全は人類の大きな課題となっている。

1970年代までは、種を守ること、つまり種の多様性保全が重要であると考えられていた。しかし1980年代以降になってからは、地域個体群が種の

実態である以上、保全する対象は個体群とする考え方が主流となっている。近年では、それぞれの種や群落がたどってきた歴史的な背景を重視し、個体、個体の集合体としての種（その実態としての個体群）、種の集合体としての群落（生態系）および人間の関与も含んだ景観の4段階のレベルで多様性を保全する生物多様性保全の考え方が主流となっている。その中心的な対象が地域個体群なのである。

こうした考え方のもとで行われてきた、端野町や北海道各地のカタクリ個体群の調査の詳細を次

回から紹介する。次回、第二回には個体群を長期にわたって観察する個体群動態の方法と結果を概説する。第三回には子孫を残すという決定的場面で重要な繁殖特性の調査方法と特性を、また第四回には植物のもっとも重要な資源である光合成産物を植物体の各部分にどのように配分しているかを紹介する。これらを通じて、端野町をはじめとした北海道内各地のカタクリ個体群は、それぞれ独自の生活をしていることが理解できると思う。さらに第五回には、端野町での調査結果をもとに、地元で取り組まれている保護保全活動の概要を紹介する。

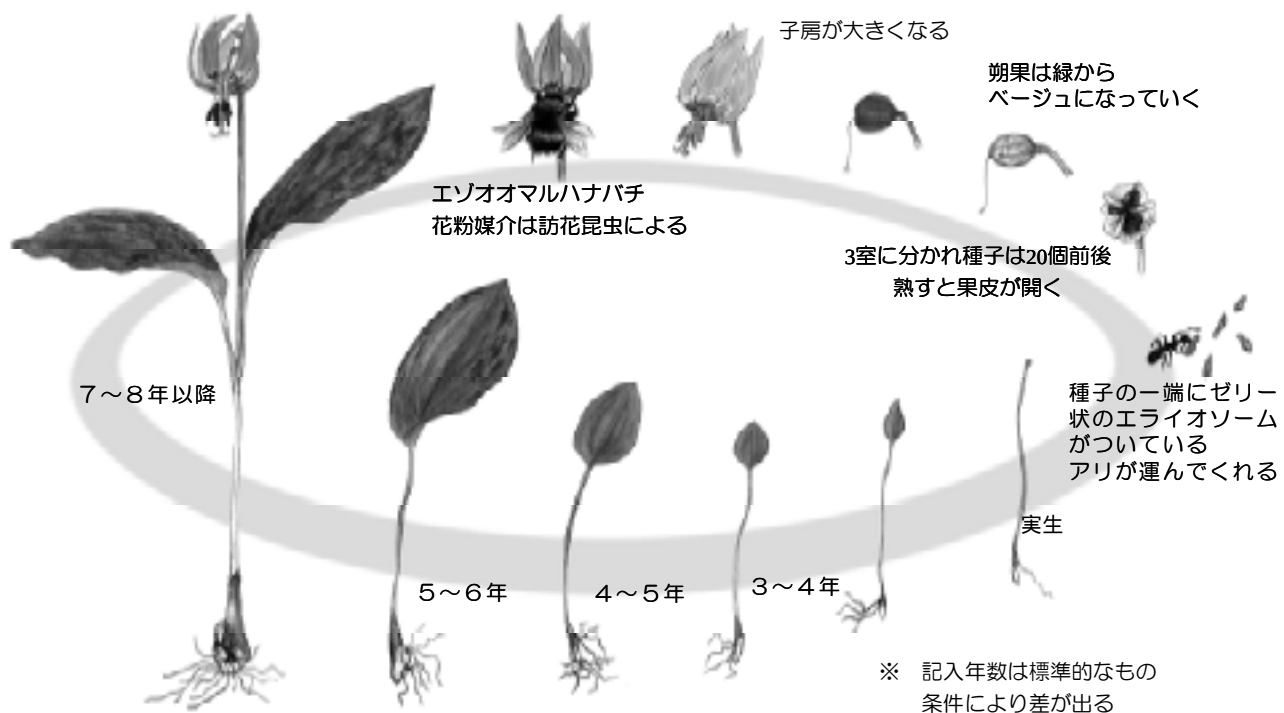


図-2 カタクリの生活環

(絵) 竹林順子

滝野に親しむ集いアルバム



川辺のミニ水族館



コエソゼミ



思い出に揃ってパチリ



ヘビトンボ



初めての経験 薪割り



カブトムシ♀

石狩市 花川防風林 07年 5月12日

天候 曇 掲載紙 道新

<身近な自然に咲く春の花を観察しよう>

気温が低めで曇天というやや条件の悪い朝ながら、参加者の期待は大きそうでした。

初心者グループと観察会経験者グループに分かれて、コース入り口のヒメザゼンソウの実の観察からスタート。

林内の踏み分け道をたどるうちに、オオタチツボスミレの花、オオバナノエンレイソウの群落、ハウチワカエデやイタヤカエデの花、蕾をつけたマイヅルソウやバイケイソウ、散り際のキタコブシやナニワズと、次々に春の花が展開しました。

オオバナノエンレイソウを例に、野の花が咲くまでには、長い年月がかかることを説明したり、殖民区画によって残された防風林の植生の多様性や、その自然を保全する上での問題などをお話すると、深く頷いてくださる方が多く、有意義な観察会が出来たと感じました。

(林 迪子 記)

白老町 ポロト湖 07年 5月12日

天候 晴 掲載紙 道新、白老町広場

<春の息吹を感じよう>

ポロト湖散策路コタン入口で看板を見ながら、コースと時間の説明をして出発という時、提案があり、2班でスタート。

下見のときの花や芽吹きの木を見ながら、クログミヤアオジの姿と声を聞きながら進み、オオバナノエンレイソウの群落では参加者から「見事」という声も聞かれました。

12時にビジターセンターに到着し、トイレと食事時間を3分とり、解散地点インフォメーションセンターに13時に到着しました。

もう1班はスミレとエンレイソウの説明に時間がかかり、途中からは歩くだけ、昼食も解散後各自でということで、参加者から「小鳥の説明も無く、何も楽しくなかった」とクレームが入りました。

指導員は行事内容を把握し、一部の参加者に対する知識披露の場所ではなく、安全で楽しく決めたコースを時間通りに案内して、再び参加したいという気持ちで帰っていただく事が必要と改めて思いました。

(鈴木 克司 記)

苫小牧市 春の錦大沼 07年 5月20日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日、民報

<春の息吹を感じる>

快晴だが強風がある。気象情報では強風注意報が出されていた。

平成16年の台風で園内の樹木が相当数倒木被害にあっており、快晴であっても強風。観察会を中止にすべきか否か、判断に苦慮。樹木の無い広場を中心として挙行することを判断した。

暖かく、風が無ければ最高の条件であった。その中でスミレ類やネコノメソウ類の判別、雑種が多いセイヨウタンポポを観察した。

参加者からは、普段詳しく観察していないが、ジックリ観察できて大変良かったとか、和やかな中で観察会が行われ、友達感覚で1日過ごせたことなどの感想が寄せられた。

観察会は、無事、事故も無く終了できた。

(佐々木 昌治 記)

北区 屯田防風林 07年 5月20日

天候 晴 掲載紙

<屯田防風林の帰化植物について>

最初は風もあり曇り空でしたが、次第に晴れ間が多くなり絶好の観察日よりとなりました。

帰化植物セイヨウタンポポについて、北海道に初めて持ち込まれた歴史背景・経過と外来生物法について説明。

桜の花も散り、オドリコソウ、マイヅルソウ、タチツボスミレの花が見ごろでした。

後半は調査シートを使い、エゾタンポポ、セイヨウタンポポ、交雑(中間)種の分布(株数)についてモニタリング調査を皆さんと一緒に行いました。10ブロックを3班で分担。タンポポの外総包片(直立、直角、下向)、花茎(毛が無数、少ない、無い)、葉の裂切(裂切が深い、中、浅い)について調べました。

皆さんは慣れないモニタリング調査に少し戸惑い気味でしたが、次第に慣れてきて子供の頃に戻った様子でした。最後に全株数に対するエゾタンポポの株数が発表され、一部より驚きの声が上がりました。

帰化植物はセイヨウタンポポ一種に限定されたが、楽しく調査、モニタリングを行うことが出来て非常に良かったと思います。

この調査を機会に、帰化植物に関心を持ってもらい、一つの啓蒙活動になれば幸いです。

(池田 政明 記)

恵庭市 恵庭公園 07年 5月26日

天候 曇 掲載紙 広報えにわ

<5月の森を散策しよう>

前夜の大雨と強風から観察会が催行出来るかどうか心配しましたが、予想に反して当日は曇り空、時々晴れ間もあって、雨上がりの新緑の森を歩きました。

花や樹木、キノコに詳しい指導員の応援があったこととサクラスミレが丁度見頃だったことがラッキーでした。

住宅地の中に在る小さなこの恵庭公園は誕生して100年以上になるそうです。ユカンボシ川の源流をもつ貴重な公園を大切に守っていかなければと、あらためて感じた観察会でした。

(富田 智恵 記)



恵庭公園

当別町 医療大学薬草園 07年 5月26日

天候 曇 掲載紙 読売

<薬草園や温室の花>

医療大学堀田先生の案内で、薬草園から観察開始。少々の雨と低温。

イカリソウの仲間が薬草になるなど、意外な例やチョウセンニンジンについての説明を聞きながら、渡辺山のほうへ移動。

ホウチャクソウ、オオアマドコロ、マムシグサなど、どこのフィールドでもよく見られるものが、とても大きく育っていることに驚きの声もれた。

ルイヨウショウマ、ルイヨウボタン、コンロンソウ、クルマバツクバネソウがたくさん開花していた。道はやがて下りになり、サルメンエビネの群落、エゾノリュウキンカ(実)の群落を見ながら、池の傍らへ進む。

エンコウソウやミツガシワを見つけたが、これらのうちのいくつかは、人手によって育ててきたものだそう。(この山は、ササ刈りから始めて、大学の先生方が設計し、播種や植栽によって多くを育ててきたとのこと。)

最後に温室で鮮やかな色のヒスイカズラなどを見て、観察会を締めくくった。

(林 迪子 記)

苫小牧市 初夏のウトナイ湖 07年 6月 3日

天候 晴 掲載紙 道新、読売、苫小牧民報、千歳民報

<ウトナイ湖周辺の湖畔林から草原、湖畔への散歩>

毎年恒例の「初夏のウトナイ湖周辺観察会」です。

暦の上では6月に入ったとはいえ、苫小牧特有の肌寒い朝でした。そんな中、2グループに分け植苗駅前をスタートしました。

湖畔林までの道すがらは、イネ科やタデ科の地味な植物が多い。所々にエゾスズシロ、クサノオウなどの黄色い花が目を楽しませてくれました。

林縁部では、ヤマウルシに注意しながら、スズラン、マイヅルソウ、スミレの仲間なども観察でき、下見の時は咲いていなかったベニバナイチヤクソウも2~3日前からの暖かさで可憐な花を見せてくれました。

河畔付近では、エゾノコリンゴも満開に咲いており、上空ではオオジシギがディスプレイフライトを盛んに繰り返していました。

お昼ごろには気温も上がり、ウグイス、コヨシキリ、センダイムシクイ、ヤブサメなどのウグイスの仲間、ノビタキ、オオジュリン、ノゴマなどたくさんの夏鳥のさえずりや姿が観察でき、充実した観察会になった様に思います。

(高橋 直宏 記)

倶知安町 半月湖周辺 07年 6月 3日

天候 曇 掲載紙

<半月湖の初夏のたたずまい>

薄曇りの天候のなか、軽いストレッチの後10分遅れのスタート。子供の参加者も多いため、最初にツタウルシの説明をしました。

火口湖である半月湖の散策路を反時計回りに進み、新緑のトンネルにさす木漏れ日の中、子供たちの目線でカタツムリやマルハナバチに出会い、薄緑色のツクバネソウの花、マイヅルソウの名前の由来などを話しました。

林道に出たところで休息がてら、笹の葉や草の葉で音を出すことを教えました。子供はもちろん大人も真剣になっていました。

タンポポにとまるミヤマカラスアゲハの羽色に感動し、湖岸に降り火口壁の上に残雪の羊蹄山を眺め一息。

戻りはミズナラの大木前で集合写真の後、木肌の違いに触れたり、葉の形を見比べたり。途中、エゾシマリスにも出会え、ケガもなく楽しい観察会を終えることができました

(金丸 忍 記)

豊平区 森林総研 07年 6月 3日

天候 快晴 掲載紙 読売

<初夏の森林総研を散策しよう>

快晴。少し汗ばむ気温。エゾハルゼミの鳴き声を聞きながら出発した。今年度は、5枚の葉（ウコギ科）を観察のポイントに林道を歩く。まず初めは、コシアブラ、次にハリギリ、少し行くと、エゾウコギ、ケヤマウコギに出会う。

同じ掌状でも単葉と複葉があるが、どちらが進化の上で高度なのかも話題となった。

ここの観察地は、似た種が隣り合わせに生えていて、比較しながら観察できることも特徴である。

エゾヤマザクラとミヤマザクラ、ミズナラとカシワ、クルマバソウとオククルマムグラ、ツクバネソウとクルマバツクバネソウなどがその一例として挙げられる。

下見では気づかなかった花が何種も見つかった。より多くの目で観察することで、新しい発見も重なるものと感じた。

(畑中 嘉輔 記)

清田区 平岡公園 07年 6月10日

天候 晴 掲載紙

<原っぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

晴れ、気温18。さわやかな風、遠くにヨサコイソーランの音楽を聞きながらスタート。上空にははっきりなしにアオサギが餌を運んでいます。

早いものは間もなく飛行訓練が始まります。木道ではミヤマガマズミ、ルリミノウシコロシなどの白花が満開。

モイワサナエ、ニホンカワトンボ（旧ヒガシカワトンボ）を確認し、人工湿地ではサギスゲ、ワタスゲが絶好調で、増えすぎたヤナギトラノオは4分咲き。横山さんからコタヌキモの説明を受け、ヨツボシトンボ、エゾイトトンボ、トノサマガエルを観察できました。

四阿で昼食後、梅林公園への丘の上り坂でチゴユリ、ジンヨウイチヤクソウ、ギンリョウソウ、ササバギンラン、クゲヌマラン、そして久しぶりの大満開だったアオダモの名残花を見て、ホオノキの大輪に鼻をつっこみウツトリ。楽しく観察していただけたと思います。

8つの市区からの参加で、リピーターが約半数、先週の森林総研参加者の3名が参加していました。

(佐藤 佑一 記)

月形町 月ヶ湖 07年 6月17日

天候 快晴 掲載紙

<初夏の植物観察会>

集合場所に困ることで、事前申し込みをしました。地元の小中学生が参加してくれたのは、嬉し自然観察 84号 (12)

かったです子供の目はやはり違うなーと色々なシーンで感じた次第です。

今回もスコープを担ぎました。コウホネとネムロコウホネの花芯をスコープで見てもらいました。図鑑でオゼコウホネとの違いを見せると、納得！

植物と言っても、手で触れるところは問題ないのですが、木の梢や対岸の花などは、肉眼ではとても無理です。植物に詳しい方の参加もあり、わたしにとっては非常にありがたかったです。ここは高層湿原に区分されているところです。しかし、私は湿原らしい植物を見た記憶がありません。もう少し足を運んで下見を丹念にしようと思います。

(佐藤 幸典 記)

中央区 藻岩山 07年 6月17日

天候 快晴 掲載紙

<もっと藻岩山>

6月とは思えないほどの暑さの中、木陰を探して受付。

開始までの時間を利用して、たまたま家に飛び込んできた、チャイロスズメバチの女王を観察してもらおう。死んで、観察ケースの中とはいえ、その迫力に少しは暑さを忘れてもらえたのではないだろうか。

山道の花は例年と変わらず、いつのまにか現れた、セイヨウオダマキも健在。

今年は、チョウセンゴミシの花を見てもらえた。

エゾタンポポが咲き終わり、綿毛になってしまっていたのが残念。

(山形 誠一 記)

北見市 たんのかたくりの森 07年 6月30日

天候 小雨 掲載紙 朝日、経済の伝書鳩

<カタクリの実と初夏の花たち>

前日から夜にかけて雨、予報も雨。予想に反し、結構な参加者。

今回の目的は、見たことのないカタクリの実とアリの関係を見てもらうこと。

天候等も考え、実に集まるアリや種子の写真を用意。運良く実際に実に集まるアリを見てもらうことができた。

全く予定外だったが、ニホンザリガニを観察できた。

咲いていた花 クサフジ、エゾタツナミソウ、クリンソウ、フタリシズカ、クサノオウ、エゾノシモツケソウ、ツルアジサイ、ジンヨウイチヤクソウ、サイハイラン。

反省 地元紙やカタクリと森の会会員への案内で開始時間を1時間早く連絡、スタートを2回にして対応した。

(竹林 正昭 記)

清田区 平岡公園 07年 7月 8日

天候 晴 掲載紙 道新インターネット

<原っぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

上空を幼いアオサギが飛行訓練中です。危なかしく高压電線を越える時などハラハラさせられます。もうすぐ親鳥と餌をとりに出かけ、巣には戻らなくなります。

沢におりるとオニノヤガラ、ツルアリドオシ、イワガラミ、ウメガサソウ。なんといってもオニシモツケ。ふわっと真綿を頭にのせたようです。可愛いめしべをつけたコクワの実。

トンボもシオヤトンボ、モイワサナエ、ニホンカワトンボ(旧ヒガシカワトンボ)、モノサシトンボ、エゾイトトンボからヨツボシトンボ、シオカラトンボ、オニヤンマと夏のトンボに入れ替わりつつあります。

人工湿地はサギスゲからエゾミソハギへと変わります。

参加者の了承の上とは言え20分オーバーとなり反省しております。

(佐藤 佑一 記)

南区 真駒内川 07年 7月15日

天候 曇 掲載紙 読売、いきいきライフまこまい

<川で遊ぼう>

当日は風が少しあり、肌寒い曇り空でした。

川へ入る前に、広場で全員輪になって、名前当てゲームを楽しみ、和んだ後、網を手に川の中へ恐る恐る入りました。

石の裏や、草の茂みなど、川底に足を取られ、服をビショビショにしながら奮闘し、「子供より私のほうが楽しんじゃって」と言うお母さん達の声も聞かれました。

ヘビトンボ、カゲロウ、スジエビ、ハナカジカなどを水槽や顕微鏡を使い観察しました。今回もサケ科学館職員の好意で、ヤマメ(サクラマス)も観察することが出来、感謝感激です。

取った魚、昆虫を川へ返して終了しました。

(澤田 久美子 記)

小樽市 オタモイ海岸 07年 7月22日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日

<バシクルモンやクルマユリなどの海岸生物>

地元小樽を中心に札幌からも早朝から参加があり、ご夫婦、友人同士、お孫さん連れもあり、国定公園オタモイ地区の森林浴、自然景観を楽しんでいただけたのだと思います。

残念なことは、バシクルモンの咲いている龍宮閣跡へは崖崩れのため立ち入り禁止で案内できなかったことです。

また昨年見られたクルマユリが、今年は見られなかった。クワの実が白く変色していたこと、ヤマブドウも実が少なかったこと。

それでも、オオイタドリの見事な生長振り、エゾアジサイの清楚な風情、ナニワズの赤い実、オオウバユリのたくましく花開く立ち姿。のびのびと生長しているエゾニュウやオオカメノキの木などが見られました。

数匹のセミの謎の集団自決? など珍しい物も観察されました。

ウグイスの美声も心地よく、楽しい観察会でした。

(本間 正一 記)

中央区 円山公園 07年 7月22日

天候 晴 掲載紙

<円山登山>

夏の円山は、時間を1時間長くしての円山登山です。

山全体を包むような、シナノキの花の香りを楽しみながら、ゆっくりと頂上を目指します。

円山の樹木植生や、なかでもシナノキの本数が一番多いなどの話をしながら、ハイユスガヤ、ツリバナ、アオダモなどの実、3種のイラクサの見分け方などを観察。

下りは動物園コースを回り、太子堂前で解散。

3時間を少しオーバーしましたが、好天にも恵まれ気持ちの良い山歩きとなりました。

(山形 誠一 記)

手稲区 手稲山 07年 8月19日

天候 晴 掲載紙

<山頂までゆっくり山歩>

晴天の中、手稲山ロープウェイ山麓駅を出発。日差しが強く、時々日陰で涼み、エゾアジサイ、エゾトリカブト、ヤマハハコ、ヤナギランなどの花の観察や、コクワ、クロツリバナ、オオカメノキ、ヤマブドウなどの実を探しながらの観察会となった。

お目当てのヤナギランは、いつもより開花が早かった。遠く札幌市街、石狩湾、近郊の山々の景色に感激、充分に楽しまれた様子でした。

(高田 敏文 記)



子供の遊べる川 求む

南区 島田 明英

盛夏を迎え、水遊びの季節になった。

私ども自然ウオッチングセンターでは、親子で様々な自然体験をする「わんぱく遊び隊」というイベントを年間10回程開催している。小学校低学年を中心に、毎回30～40人くらいの親子が参加する。夏にはもちろん、川遊びを企画するが、毎年その場所選びに頭を悩ますのである。

札幌は自然が豊かというイメージ通り、市内や近郊に親子で遊べる公園や緑地はそれなりにある。しかし、子供が遊べる川となると、条件を満たす場所をなかなか探せないでいる。

川遊びの2大要素は、「水遊び（泳いだり水辺でバチャバチャ水遊び）」と、「魚捕り」であろう。水遊びの場所ならあちこちにある。しかし、子供でも魚がつかまえられる川となると、非常に難しくなる。

川の中・上流域はサケ科の魚が中心で、子供達が網ですくえる対象にはなりづらい。子供の遊び相手としては、トンギョ（トゲウオ類）、ドジョウ、ハゼ類など下流域に多い魚たちだ。そこで、魚捕りは下流域でとなる。

参加するのは魚をつかまえるのが初めてという子供がほとんど。そんな子供が網ですくえるのは、川岸に植物が繁茂していて、その中に魚がたくさん隠れているような場所だ。さらに、安全に子供が立ちこめる深さ、子供が全身水浸しになっても汚くない程度の水質なども求めたい。

ずいぶん贅沢な要求のようだが、水田の用水路や平野部の小川が改修・整備される以前は、どこにもあった風景だと思うのだ。

水遊びができるように、階段状の護岸を整備した場所はあちこちにある。しかし、上のような条件を備えた場所は残念ながらほとんどない。

子供が魚捕りをして遊べる川、ささやかな願いだが、川全体を生き返らせないとかなえられないことなのかもしれない。



身近な自然 黄金山に登って

石狩市 若松 隆

私の住んでいる石狩市は、平成17年10月に厚田村、浜益村の2村と合併しました。これにより、私の自然活動の範囲が広がったように思います。

石狩湾海側に沿って北へ約80キロ、海岸砂丘、はまなすの丘公園、マクンベツ湿原、厚田区の濃昼山道と続きます。動植物も数多く生息し、様々な自然の植生が観察出来ます。

その中でも浜益区の黄金山には、毎年3、4回ほど入山していますが何度来ても「いい山だなあ！」と感じます。特に、実田付近からの眺めは昔話に出てきそうな神秘的で魅力ある山です。

今回5月、7月二回の山行です。実田橋を背にして田んぼを通過して林道に入り、ここから登山道入口までの4キロは様々な植生に出合えます。林道を250mほど進むと雪解けの水が湿地となりミズバショウの群落があり、早春の南斜面ではカタクリ、ニリンソウの花が咲き乱れ、眺めていると昔の懐かしい自然の姿が甦ります。

浜益富士とも云われている黄金山（標高739.5m）は、国定公園に指定されています。登山口（標高190m地点）から標高350mまでの山道は、沢水、雪解け水に覆われ、湿原の植物が豊富で、植物観察に絶好の場だと思います。サワササの白い花や、シダ類、爽やかな風によって聞こえてくる野鳥の声が心地よく感じます。

トドマツ林を通過し明るい場所に出るとシラカンバ、ミズナラ、ササが一面に広がり、このあたりからは植生が変わってきている様です。この地域に隔離分離するキバナイカリソウやハナヒリノキ、エゾオオサクラソウなども確認できました。

旧新道の分岐点（標高350m）から新道コースへ進むと、イタヤカエデ、シナノキ、林床はタンポポモドキなどの帰化植物が目立ちます。少し進んでいくとササ原続きのすばらしい大草原です。そしてこの辺りから急な登り（標高400m）となりイワガネゼンマイなどのシダ類、マシケレイジンソウ、オオハナウド、オクエゾサイシンなどの草本類も見られ、落葉広葉樹林の多いところでは林床植物が豊富であることもわかります。

山頂に近づくにつれ岩が露出し足元が不安定になり、岩と樹木の間にはトカゲの姿も発見できました。岩場のそばにはダイモンジソウ、ウシノケグサ、標高が高くなる



につれてミズナラ、ダケカンバ、ミヤマハンノキやミヤマガマズミの白い花が印象的。登る度に気になっていた山頂付近の岩の種類を後で調べてみると、安山岩の柱状節理が発達した窪地であることが判りました。

昨年この辺りの岩の隙間からミヤマアズマギクが見事に咲いていたのを思い出します。そして、アサギリソウ、コケモモ、ハイマツなどの高山植

物が出現するとそこは山頂です。幌天狗、目前には群別岳、尾白利加岳（奥徳富岳）と広がり、素晴らしい眺めです。人里近くにありながら、ミズナラ、シナノキなどの樹木が自然のままに残っている山は年々減っているといわれています。黄金山の美しい自然をいつまでも保護し見守っていく為に、観察会などを通し多くの人たちに自然環境の大切さを伝えていくことが私の望みです。



2007年度 観 察 会 ('06年9月22日 ~ '07年11月3日)

※下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
9月22日 (土)	野幌森林公園(大沢口)観察会 (親子・子供特集) 森に秋を探しに行こう	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00集合 ~ 12:30解散	JRバス新札幌駅発 循環バス83番, JR森林公園駅 → 徒歩8分 国道12号線開拓の村入口バス停 → 循環バス, 「文教台南町下車」 徒歩10分	9/15 (土) 10:00 ~	横山武彦 011-387-4960
9月23日 (日)	もっともっと藻岩山 藻岩山散策 (旭山記念公園・慈恵会)	札幌市 中央区・南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合 ~ 14:00慈恵会駐車場解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミナル発, JRバス「旭山記念公園」行き	原則一週前	山形誠一 011-551-5481
9月24日 (月)振	大谷地の森観察会 秋を探そう	札幌市厚別区 大谷地の森公園	地下鉄東西線大谷地駅 1階バスターミナル 10:00集合 ~ 12:00解散	地下鉄東西線大谷地駅下車	9/16 (日) 10:00 ~	澤田久美子 011-891-1962
9月30日 (日)	手話で楽しむ観察会 すばらしい自然の残る青葉公園で、聴覚障害者と一緒に手話による観察会をします。	千歳市 林東(りんとう)公園	林東公園駐車場 9:30集合 ~ 12:30解散 必要に応じて昼食持参 手話に興味のある方大歓迎。	JR千歳駅前、千歳バス8:50発「支笏湖行」「大和団地入り口」下車 駐車場有	9/22 (土) 9:30 ~	川北美由紀(fax) 0123-24-5946 中川晃 0123-28-8927
10月6日 (土)	目名川観察会 サケの遡上 生と死のドラマを見つめよう	蘭越町 尻別川・目名川 合流点付近	名駒駐車場 10:30集合 ~ 12:00解散 長靴があれば便利 蘭越自然探検隊 共催予定	JR昆布駅 ~ 現地まで送迎バスが出ます。 要事前申し込み、利用希望者は連絡員へ。 定員(40名)になり次第締め切ります。 蘭越町教育委員会 後援予定	原則一週前	大表章二 0136-57-5610
10月7日 (日)	「天神山」観察会 天神山緑地の紅葉を歩こう	豊平区 天神山緑地	天神山緑地駐車場(自由広場隣) 10:00集合 ~ 12:00解散 または地下鉄南北線「澄川駅」改札口 9:40集合	地下鉄南北線「澄川駅」下車 徒歩10分	9/30 (日) 10:00 ~	今村浩子 011-572-3019
10月7日 (日)	「秋の錦大沼」観察会 キノコを楽しむ	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合9:00 ~ 14:00解散 雨天原則決行・強風日中止	自家用車のみ 昼食持参 あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	10/6 (土) 9:00 ~	豊沢勝弘 0144-74-0572
10月13日 (土)	晩秋の嵐山を歩こう 紅葉と草木の冬支度をしながら散策しよう	旭川市嵐山公園	嵐山公園センター(北邦野草園隣接) 9:30集合 ~ 12:00解散 駐車場、センター手前の橋下河川敷 JR旭川駅から北西に約7km 約20分) 小雨決行	「旭川電気軌道バス」西武旭川店A館乗り場 14:33番8:09発、3番8:33発 「北邦野草園」下車 下車後バス停隣の坂を登り徒歩約15分	10/8 (月) 9:30 ~	原部 剛 080-6092-4347 (問合せ19時以降)
10月14日 (日)	秋の北大構内観察会 エルムの秋	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学正門 10:00集合 ~ 12:00解散	JR札幌駅北口より徒歩5分	当日 9:00 ~	須田 節 011-752-7217
10月14日 (日)	利根別自然休養林観察会 秋の野草観察会	岩見沢市 利根別(とねべつ)自然休養林	利根別自然休養林駐車場 9:00集合 ~ 12:00解散 花や樹の図鑑がある方は持参を 雨の場合は長靴など雨具必携	JR岩見沢駅前バスターミナル発 「教育大前」下車、徒歩15分		佐藤幸典 0126-23-4415
10月21日 (日)	秋の円山公園観察会 木の実と紅葉	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 10:00集合 ~ 12:00解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車	原則一週前	山形誠一 011-551-5481
10月28日 (日)	「晩秋のウトナイ湖」 ハクチョウ(渡り鳥)の観察と森のお散歩	苫小牧市 ウトナイ湖周辺	環境省ウトナイ湖保護センター前 9:30集合 ~ 12:00解散 必要に応じて昼食持参	新千歳空港9:15発道南バス 「苫小牧」行き乗車、「ウトナイ湖」下車 無料駐車場有	10/21(日) 9:30 ~	谷口勇五郎 0144-73-8912 宮本健市 0123-28-4720
10月28日 (日)	「モエレ沼公園」観察会 渡り前集結の鳥たち	札幌市東区 モエレ沼公園	モエレ沼公園 東駐車場 9:40集合 ~ 12:00解散 防寒の用意	地下鉄東豊線 環状通東駅 9:10発市営バス「札幌69番」 モエレ沼公園入口下車		須田 節 011-752-7217
11月3日 (土)祝	「長橋なえぼ公園」観察会 冬を迎える生き物たちの不思議な生活	小樽市 長橋なえぼ公園	なえぼ公園「森の自然館」 9:00集合 ~ 12:00解散 防寒着を用意	小樽駅前 国際ホテル向かい発 中央バスオタモイ線、苗圃通り下車、 または塩谷線、長橋4丁目下車		後藤言行 0134-29-3338

【事務局だより】



- ☆ 2008年9月に埼玉県所沢高校の生徒が来道し、北海道の自然体験の一環として行う野幌森林公園観察会実施の手伝いをする予定です。会員どなたでも参加できるプロジェクトチームを組んで、改めて北海道の自然について考えてみたいと願っています。詳細は所沢高校の日程が決まってからお知らせします。
- ☆ 救急救命講習会を'08年2月3日に行います。日常生活にも必要なことですので多数の参加をお待ちしております。詳細は次号でお知らせします。
- ☆ 旭川で、7月の旭川研修会につづいて10月13日に観察会が実施されることになりました。詳細はウオッチングプランをご覧ください。
- ☆ 観察会の報告をホームページに掲載しております。観察会の様子や出会った植物・動物の写真も一緒に載せております。各観察会2〜3枚でも印象が違いますのでぜひ、お寄せください。

E-mail hzx01204@nifty.com へお願いします。

【理事会だより】 〈理事会議事録から抜粋〉

第1回理事会 '07/6/11 環境プラザ研修室

- ・「第18回滝野の自然に親しむ集い」8/11〜8/12 実行委員会5/19開催。 下見日程6/16、7/21、8/5。
- ・研修部 地方研修会旭川「春光台公園」6/24。 全道研修会名寄「下川町サンル川」9/15〜9/16。
- ・北海道立市民活動センターのパネル展へ協議会活動内容のパネルを出展 7/19〜7/20。
- ・講師派遣依頼 札幌南区民センター5/11 5/25 6/8。 札幌市厚別中央地区福祉協議会6/26。
- ・共催 たんのかたくりと森の会 5/3 5/4 5/5 5/7 6/30。
- ・自然観察指導員講習会協力でミニ観察会講師6名選出。

第2回理事会 '07/8/1 札幌エルプラザ研修室

- ・'08年植物園の観察会は5月4日、植物園の入園料無料の日に変更。
- ・10/13旭川市嵐山で観察会を実施する。
- ・6/25旭川市春光台公園研修会決算報告。
- ・地方研修会（札幌）8/25、全道研修会（名寄）9/15〜9/16について。
- ・講師派遣依頼承認：南区民センター・埼玉県所沢高校
- ・日本自然保護協会「第二次里やまにおけるふれあい活動調査」は個人で協力する。
- ・環境省「新しい北海道環境基本計画原案について意見募集」締め切り8/16。個人で応募する。

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
		会 計	畑中 嘉輔	〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
				/Fax 011-581-5439
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	02770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
		観察会担当会計	引地 輝代子	〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25
				/Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一	〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14
				011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	大表 章二	〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
				0136-57-5610
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	須田 節	〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13
事故発生等緊急時は				/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
			北海道保険保証	011-222-0877（日・祝祭日は休み）
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	〒099-2103 北見市端野町3区378-3
				/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2007年 9月 15日 / 第84号 年4回発行
 (会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
 発 行 **北海道自然観察協議会**
 編 集 北海道自然観察協議会編集部